

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルームゆあーず門真 放デイ		公表日		2026年 4月1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		個別療育であるため最大2名までとなっている。100平米と運動するにも十分である。	運動にも取り組めるため十分なスペースがあると思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		個別療育にて1枠に最大2名の児童となっている。児童の状況によっては1名で対応したり、大人3人児童1名と児童によって対応をできるように配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		視覚支援を意識している。挨拶する場所や入らない場所など見てわかるようにしている。	玩具など視覚情報が多い。片付けるも1年すれば物が増えるため定期的に整理整頓は意識が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		掃除など環境整備は意識している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもが不調の時や療育中に気持ちが崩れた際はゆっくりできるように部屋を設けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		月1回ミーティング時に、業務改善の提案や実施している業務の現状を意見し合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者のアンケートは回覧している。	意向があれば、できることかを話し合って改善していきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月1回のミーティング時に把握している。個別で話を聞く機会も作っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		市や府の案内の研修は回覧し自主的な参加を促している。	事業所内研修は、感染、虐待、BCPが多く療育の研修は少ないが、毎日療育のOJTがあるのでスキルアップに繋がる。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		職員全員で意見を出し合い考えた。ホームページに掲載する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントは分かりやすい様式にしている。	特性はもちろん環境も踏まえ考えるように指導されている。個々も見立てなど周りの意見を聞く環境もある。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		直接支援にかかわる職員の意見を聞きながら情報収集する。色々な視点で考える。	療育には正解がないので色々な意見を出せるように担当者会議をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		担当者会議にて共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		療育ごとのフィードバックで確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		できる範囲、達成できそうな内容でしっかり設定されている。	移行支援についての理解がない職員もいたので知る機会を作る。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個別なので職員が各々考えてする。毎回同じような療育にならないように意識している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		個別なので職員が各々考えてする。毎回同じような療育にならないように意識している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		集団は年に1から2回と少ないがしている。個別療育であるが子どもたちのニーズが合えばペア療育を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝礼と終礼にて今日と明日の打合せをしている。	前回の反省点や改善したことなどをしっかり再確認することが大事である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		個別療育後、次の療育までフィードバックをしている。子どもの様子、職員の対応など振り返り次回の療育に継げたい。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録の徹底ができるように担当の割り振りを考えている。	保護者との話もしっかり記録することで、休みの職員とも共有できるようにしている。保護者用の記録と職員共有用の記録と時間がかかる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		最低でも半年に1回は見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		意識して活動を考えている。難しいのが地域との交流。ボランティアにてイベントを行ったりしているが全員に提供できていない。	地域交流に関しては、求めない保護者もいると思う。個別療育なので取り入れにくい。地域の公園で祭りをする施設もあるが、そこま
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	5		療育に含まれる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの事をよく理解した職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		こういうケースは、どこに報告するか？など職員間で話し合いながら行っている。	相談員との連携慣れてきた。医療や学校等はこういった時に連携が必要なのかが難しい。まずは相談員と連携するが、セルフの場合は判断が難しい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎は行っていない。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	4	未就学児から利用されている児童がほとんどである。	就学後からの利用になった際は、こちらから相談支援より情報をいただくようにしていく必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		求めがあればお伝えします。	モニタリングを通して、相談支援員に情報提供に努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		市によってであるが、支援センターの研修がある場合は参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		特に考えていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		共通理解できるように努力が必要。保護者同伴であるため最近の様子を聞いている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		療育を見て頂き職員の声掛けや、対応を見ていただくことで、参考にさせていただけるように意識している。	職員が手本となるように意識して療育する必要がある。
保護	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		体験時に説明しご理解いただき契約することとしている。	支援プログラムに関しては、理解に時間がかかる場合は利用を通してゆっくり説明して行く必要がある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		必ず保護者の意向を聞き、こちらの意向とをすり合わせている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		必ずしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		療育を見ながらお話を聞くことにしている。話しやすい環境に努めている。	相談に乗ることや助言一つするのに伝え方が難しい。答えがないものなどの返答など、簡単に話すものではないので職員間で共有し一緒に考えるようにしていく。生活背景も分かった上で話ができるようアセスメントをしっかりとる必要がある。

者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	保護者に聞くと、求めている方が多い。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者同伴での療育であるため、その都度対応している。話しやすい環境を意識している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		インスタグラムを定期的に行っています。	撮影、動画作成と業務に追われます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		SNSに関しては同意書を取っている。持ち出し書類は禁止している。	LINE送り間違いに気をつける。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		月1回のミーティング時に毎回議題に入れている。その時に事故報告、感染情報を共有しマニュアルの訂正あれば行う。	感染対策は、活動をSNSを使ったりし保護者へ周知している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		水害、地震とシミュレーションを定期的に行っています。	図上訓練が多い。こういう時どうするかイメージはしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		アセスメント時に聞いている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食維持提供はしていない。念のためアレルギーは聞いている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		吊り具など点検をしっかりとできるようにチェックリストを作成している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		危ないことを共有する時間を作っている。	家族への周知が甘いところがある。こういった形で伝えればよいか検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		少ししたことでもすぐに話し合い決定しています。報告書も作成し、みんなに周知する仕組みにしています。	新入職員が子どものアセスメントから危険に繋がることを考えられるまでは、細かな指導を徹底しないとイケない。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		大阪府からの研修案内があれば徐行しています。周知は研修の書類と報告書にてしています。年1回と新入職員への事業者内研修も行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		実績がないです。	事業所内研修で考える機会はあるが、個別療育において拘束はないため意識は低い。研修の内容を変えていく方が良い。	